

第 1 回九州佐賀国際空港PI評価委員会 議事概要

1 開催日時

令和5年 7 月 18 日(火)10:30~12:00

2 開催場所

佐賀県庁 新館7階 地域交流部 西会議室

3 出席者

(1)委員

弁護士 松尾 弘志(委員長)

佐賀大学工学部教授 帯屋 洋之

佐賀大学教育学部准教授 高島 千鶴

フリーアナウンサー 鳥井 智子

(2)協議会

佐賀県地域交流部理事 野田 信二

4 議事

(1) 報告事項

① 九州佐賀国際空港PI評価委員会の設置について

② 委員長の選任について

(2) 審議事項

PI実施計画について

5 議事概要

事務局からPI評価委員会委員に報告事項及び九州佐賀国際空港滑走路延長に関するPI実施計画書(案)の説明を行い、質疑を行った。

【質疑概要】

(松尾委員長)実施計画書(案)の中に「皆様」「みなさん」という言葉があるが、基本的には県民をはじめとする佐賀空港に関心を持っていただいている方々に情報提供するということでよいか。

(事務局)この「皆様」は、PI対象者の皆様のことである。実施計画書(案)では「佐賀県や福岡県南西部等にお住まいの方をはじめ、さまざまな方に」と説明をしている。

(松尾委員長)PIの活動のあり方は、とにかく分かりやすいこと。分かりにくいと意見を表明しにくくなる。難しい言葉が使われてないかが大切。PI対象者という言葉は分かりにくいので、「みなさん」という言葉に変えてはどうか。PI対象者の説明も、非常に長いので分かりやすい書き方にしたほうがよい。

また、実施計画の中に、読む人が調べないと分からない表現がある。調べないと分からないものは書く必要がない。あるいは、必要な情報であれば、その説明を入れないといけない。例えば「ゲートウェイ空港」という言葉。

(事務局)読み手が読みやすいように記載方法を検討する。

(帯屋委員)公共事業委員会等に出席していると、費用対効果(以下「B/C」という)の概念をしっかりと説明してほしいという意見が多い。滑走路延長効果のみで経済効果を示すのは難しいかもしれないが B/C を示すことや、将来的にこのようになるというイメージが伝わる情報を提供できると良い。

(事務局)ご指摘を踏まえながらPIレポートを作成する。

(高島委員)佐賀県はアジアの方が多と思うので、海外の人に対してもわかりやすく情報提供できないか。

(事務局)まずは地元の人たちにしっかり県の事業を説明することが重要だと考えており、情報提供の言語としては日本語のみを考えている。

(鳥井委員)PI 対象者を募る際に、ターゲットを絞ることが大事だと思う。興味を持つのは空港を利用する人だと思うので、利用者が使う路線バスやタクシーに広報の協力をしてもらうのはどうか。福岡空港の路線バスにお願いしてもいいのでは。滑走路を延長することで海外便が増えると、佐賀空港には駐車場が無料という利点があるので、福岡空港だけでなく、佐賀空港の選択肢が広がるのでは。

アリーナが出来て全国から空港を利用してくるので、アリーナに置くのも一つの手だと思う。

また、佐賀弁のキャッチコピーがあると、PIの目的が分かりやすい。

(事務局)交通機関などにも相談し、PI 対象者に情報提供することを検討する。キャッチコピーについても検討していく。

(松尾委員長)PI評価委員会の役割を説明するためのキーワードとして、透明性、客観性、公平性、公正性、適切性とあらゆるキーワードが混在している。透明性、客観性が求められるのは公共事業で、評価委員会はPI活動に助言する立場。どの言葉を使うのかももう一度整理が必要。

(帯屋委員)PI活動で一番やらなければいけないことは、住民が参加しやすい環境を整えることであると思う。交通機関で移動している時が、そういう意識が一番高まるタイミングだと思うので、その時にQRコードから意見を入れられるような仕組みを考えてはどうか。

(事務局)ご意見を踏まえ具体的な取り組みについて、次回の委員会で説明する。

(鳥井委員)みなさんからいただいた意見はすごく重要。いただいたご意見に対して、Q&Aのような形で回答することができればよい。ただ意見をもらうだけでなく、誠実に対応してくれるという安心感につながると思う。

また、これから佐賀空港を利用し、海外にどんどん出て行くのは、これからの世代の人たちである。

最近ではテレビを見ない若者世代が多く、SNS での情報提供についても、佐賀県佐賀市の SNS というのは的確な情報を得るためには見るが敷居が高い感じがする。

若者世代にアプローチするためには YouTube の活用や、インフルエンサーに佐賀空港に興味を持ってもらう仕掛けも必要なのではと思う。

(事務局) どうすれば若い人に伝わるかという視点を持ちながら、PI 活動を考えていく。

(鳥井委員) 佐賀県は美味しいものや良い物がたくさんある。佐賀空港が 2500m 滑走路であれば、もっと輸出できるものがあるので、農林水産関係の方たちにも延長の計画を知ってもらい議論に参加してもらえないかと思う。

(事務局) その視点を持ちながら、PI 活動を検討する。

(松尾委員長) 実施計画書(案)にある PI 活動の周知広報と PI 活動の情報提供は、同じことではないか。

(事務局) 分かりやすくなるよう、どのように整理するか検討する。

(高島委員) アンケートはどれぐらいのボリュームか。

また、若者向けとして大学にポスターを設置してはどうか。

(事務局) 先行のPIの事例では、自由意見まで入れて 8 問程度。次回、アンケート案をお示しする。

ポスターについてもやっていきたい。

(松尾委員長) 計画書の中で、滑走路延長整備や空港整備事業、延長計画など、いろいろな言い方や言い回しがある。何に対して意見を表明していただきたいのか、視点を明確にするためには定義が大事である。繰り返し出てくる言葉はなおさら大事になる。わかりやすく伝える手段としては、同じ言葉を使う方がよい。

(事務局) ご指摘の様々な言い回しについて、もう一度確認し、分かりやすく整理する。

(松尾委員長) 冒頭に申した「皆様」がいいのか、「みなさん」がいいのか、「住民の方々」が良いのか、いろんな言葉が出てくる。「みなさん」というのが対等な関係、伝える言葉として伝わると思う。

(鳥井委員) まず興味を持ってもらうことが重要。佐賀空港のマスコット「むっぴー」のようなキャラクターを使って子供でも理解できるような作り方をすれば、子供も興味を持ち、当然親も興味を持つので、興味を持つ方の幅が広がると思う。

(事務局) 分かりやすくする観点を持ち、むっぴーもうまく活用する。

(松尾委員長) 実施計画書(案)に「PI 活動は、PI 評価委員会による評価・助言を受けながら進めることで、PI 活動の透明性、客観性を確保します」とあるが、滑走路延長事業の透明性と客観性を、PI 活動を通じて確保するという意味の文章に変えないといけないのではないか。

(事務局) 修正する。

(松尾委員長)実施計画書(案)の中で、PI 活動の終了の判断において評価委員会の「承認」という言葉が使われている。PI評価委員会の位置づけはあくまで「助言」とどまるものである。

また、この部分は文章が2重になっているので整理した方が良い。

(事務局)修文する。

(松尾委員長)「PI 活動は何を目指すのか」はまさに本質の部分だが、実施計画書(案)には、「みなさんとの円滑な合意形成」がPI 活動の目指すところというように誤解を受けるような文章がいくつか出てくる。PI 活動は、あくまでもみなさんに内容について理解いただき、賛成、反対、それ以外のたくさんの意見をいただき、それを踏まえて、計画に反映させるために実施するもの。合意形成という言葉が全面に出ないと思う。

(事務局)今のご指摘を踏まえて、言葉の整理をしたいと思う。

(鳥井委員)少子化の中、これだけのお金を使って滑走路を延長する必要があるのか、県民の負担にはならないのか、という心配もある。県民のみなさんには、滑走路延長事業の費用対効果について、どのような基準で実施するのか、費用対効果をしっかり説明する必要がある。

B/C について、県民のみなさんにもわかっていただいた上で、メリットだけでなく、デメリットも示して意見を把握することが重要、2 回目の委員会では B/C の考えも入れてもらいたい。

(事務局)みなさまにご理解いただけるような形で進めていく。

(松尾委員長)実施計画書(案)の中で、「PI 活動への積極的な参加を促す」と方針が記載されているが、住民のみなさんに意見をいただいて参加してもらおうという意味は、「この事業計画の策定に参加してもらおう」ことを指す。PI 活動を積極的に行う実施主体は協議会であり、みなさんはあくまで対象者であるため、住民の方に「PI 活動への参加を促す」という書き方は少し意味が違うのではないか。

(事務局)表現を検討する。

(松尾委員長)PI 活動の意味を考えたときに、この計画に住民の声を反映させる。そういう意味では計画策定に参加してもらおう。そのところを方針の中で謳って、住民にアピールできないかと考えている。計画を作るのにあたり、みなさんに参加して欲しいというメッセージを伝えるのが、この計画書の役割だと思う。

(事務局)ご助言を踏まえながら分かりやすく整理する。

以上